

りんご幼果に発生した炭そ病の発生特徴

平成12年、県南部の複数の園地において、りんご幼果に赤色斑点を生ずる病害が発生した。本症状は、落花期～幼果期にかけてりんご樹上（果台等）で増殖した炭そ病菌（*Colletotrichum acutatum*）が幼果期に感染し発生したものである。本症状は新たな炭そ病の病徴である。なお、罹病果は収穫期頃に腐敗し二次伝染源となる可能性があるため、見つけ次第摘み取り、土中に埋没する。

発生時期、病徴および病原菌

発生時期 6月中旬～7月上旬、気温が高い場合
病徴 幼果の陽光面に直径1mm以下の赤色斑点が多数形成される（右図a）、腐敗することもある（右図b）

病原菌 炭そ病菌 *Colletotrichum acutatum*（コレトリカム・アキテータム）である。本種は、ペフラン液剤およびトップジンM水和剤に対する感受性が低い。



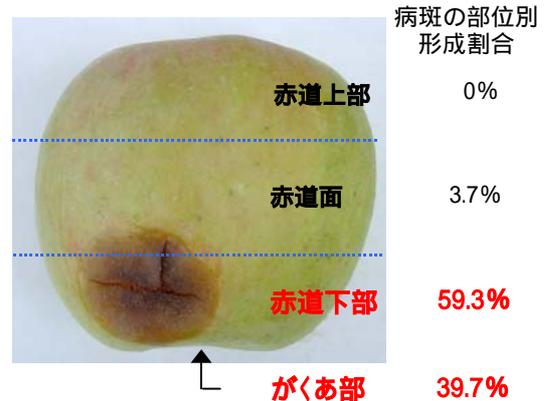
罹病幼果は収穫期頃に赤道面より下部が腐敗する

発生時期 8月中旬～収穫期
病徴 幼果の赤色斑点は、果実の肥大に伴って消失するが、収穫期が近づくと果実腐敗に至る。

発病部位 陽光面での発病が多く、赤道面より下部に高頻度に認められる。さらに、無病徴の幼果でも赤道下部に腐敗が認められる（右図）。

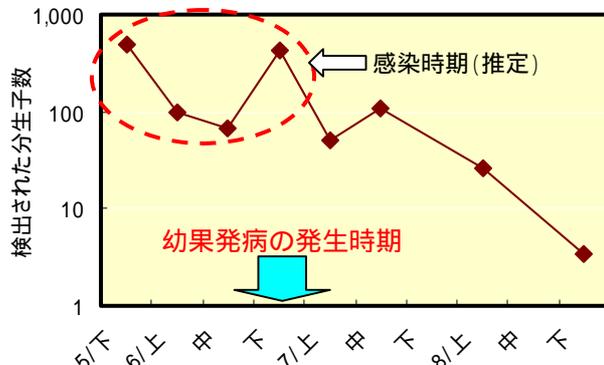
腐敗果数 収穫期に近づくほど腐敗果数は増加する。

⇒ 幼果期に感染した場合の特徴的な病徴である



伝染源はりんご樹上にも存在する

発生園場のりんご樹上（果台、果梗）では、落花期～幼果期にかけて本病菌の胞子（分生子）が多量に形成されている。この時期は幼果発病の発生時期と一致することから、これが伝染源として考えられる。



りんご樹(果台)における炭疽病菌の分生子形成量と幼果発病の発生時期



オレンジ色の分生子塊

果梗残さに形成された炭そ病菌の分生子塊